

令和6年度ウミガラス保護増殖検討会

議事概要

◆日時：令和6年12月17日（火）13：30～16：30

◆場所：札幌市教育文化会館 402号室（オンライン併用）

◆出席者：配布資料参照

◆議事概要 ※○：委員 ◇：オブザーバー □：環境省

議題（1）. 令和6年度ウミガラス保護増殖事業の実施結果

1. モニタリング調査結果及び対策実施結果について →【資料1-2】参照

（給餌魚種について）

○2023年の繁殖成績が悪かった理由として、給餌頻度の低さやハシブトガラスなどによる捕食が考えられる。

□今後も餌運びの状況や頻度のモニタリングの継続が重要である。

○給餌魚種は、解析可能なデータの魚種分類を進める。

（捕食者対策について）

○ウミガラスを捕食しに来る特定の個体（カラス）を駆除するのが最も効果的である。

○他地域で実施されている、罠を用いたカラスの誘引捕獲などは将来的に実施予定か。

□カラスの罠捕獲は、メンテナンスの労力がかかるなどの理由から、効果的な手法と考えていない。

（デコイについて）

○デコイを撤去すれば、繁殖できる個体が増えるのではないか。

□昨年デコイを一部撤去したが、昨年は繁殖個体が激減してしまったので、影響評価ができていない。個体群の密度に応じて撤去を検討していく。

○今後、繁殖個体が増えてきたら同様に検討するとよい。

議事（2）. 令和7年度ウミガラス保護増殖事業の実施計画

1. モニタリング方法の検討について →【資料2-2】参照

（ドローンについて）

○ドローン飛行でウミガラスが驚くかどうかや、ドローンのカメラに何がどう撮影されるかを確かめ、ビデオカメラとも比較するなどの試行をするべき。

□ウミガラスがいない・少ない3月頃に巣棚内を撮影し、ディスターブを避けるため育雛期に試行したい。

（飛来数について）

○飛来数とつがい数の相関関係が出れば、将来的には飛来数からつがい数が計算できるだろう。年変動を想定しながら検討すべきである。

（カメラ設置について）

○従来の、登山家による巣棚内へのカメラ設置の方法は、いずれ難しくなるがどうするのか。

□代替手法の検証の意味も含めて少なくとも2～3年はビデオ設置を継続したい。ビデオの重要性は理解しているが、体制的にどこまで継続できるかは分からない。

□これまでカメラで取得してきたデータを整理したうえで、新しいモニタリング方法によってどのようなデータが取得できるのかを検討していきたい。

（その他）

- カメラの設置位置を下方の海岸などに設置するということも検討してはどうか。
- 捕食者や餌との関係について、直接観察など、簡便にできる代替手法を検討してはどうか。
- 赤岩の柵の下で直接観察し、写真に収めることは可能だと思う。

2. 捕食者対策の実施について →【資料 2-3】 参照

(エアライフルについて)

- 海岸付近では、既存の手法のまま、頻度を増やすことを考えている。
- 令和 6 年度に確立したシャープシューティングの手法で集中的な捕獲を実施する。
- 巣付近では、巣に戻ってきたカラスの親鳥を捕獲する手法を検討している。

(観光客対策について)

- 観光客、地域住民、海鳥研究者が利用する地点があるため、事前に連絡の上、対策を実施していく。
- 赤岩での対策は現実的ではないが、古灯台のほかにもう 1 地点追加し、2 名体制で対策を行いたい。

議事 (3). その他

1. 傷病個体の受け入れ技術開発について →【資料 3-1】 参照

- ケイマフリなどの他傷病鳥の受け入れは考えているか。
- 現在、ケイマフリを飼育している施設はないため、まずは飼育実績が豊富なウミガラスを対象に実施し、将来的にはケイマフリにも使えるようなガイドラインを作成したい。
- ハシブトウミガラスなど似た種が保護された場合にも応用できる仕組みになると思う。

2. 羽幌 SBF 推進協議会の取組及び天売島ネコ・ネズミ対策について →【資料 3-2】 参照

(羽幌 SBF について)

- 認証事業者増加のため、「海鳥の保護につながっている」というストーリーを重視した認証のやり方がよいのではないか。
- ウミガラス保全にも関係するため、地球温暖化の対策に取り組んでいる企業や団体にも呼びかけを行うとよい。
- 酪農業の基準はどういったものが考えられるのか。
- ◇完全有機の飼料を用いた先進的な酪農業を実施している方と相談したい。

(ネコ対策について)

- 数年に 1 回でもよいので、島内のノラネコのモニタリング調査を行うべきではないか。
- ◇現在、客観的な調査は行っておらず、ネコが繁殖しているかを知るために仔ネコの目撃情報を地域住民から集めている。新たにノラネコが導入される可能性もあるので、調査は検討していきたい。
- ◇収容施設が満杯で収容できなかった個体は不妊手術を施したうえでリリースしたが、捕獲した個体の最高齢は 5 歳で、自然下ではすでに生存できていないと考えられる。そのため、現在、天売島にノラネコはほぼいないと考えている。

3. 海鳥繁殖地におけるドブネズミ対策について →【資料 3-3】 参照

- ◇巣穴の入り口にセンサーカメラを設置しており、繁殖地付近の撮影頻度は例年並みであった。しかし島民の声からも、ドブネズミが海岸に分布を拡げているのではないかと考えている。
- ◇来年はカメラ台数を増やすなどの対策を考えるべき。
- 巣柵の入口だけではなく、繁殖地付近にもセンサーカメラを増やすべきか検討する。
- 自動捕殺されたドブネズミをカラスが捕食することがあれば、海岸部でのネズミ対策の結果、カラ

スが海岸部に誘引されてしまうという可能性もある。注意が必要。

○モニタリングをして、ネズミが増加傾向にあることが分かった際に、対策を取る準備を進めるべき。